

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	環境情報活用小委員会		主 査 名：横尾 昇剛 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)		委員長名：岩田 利枝 主 査 名：中島 裕輔
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2020 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	様々な分野において IoT 活用が重要となってきた現在、建築・都市における環境情報の活用が求められている。また地域の環境資源を活かしながら地域の再創生の一旦を担う建築物が増えつつあり、こうしたプロジェクトでは、企画、設計、運用の各プロセスを通じて、これまで扱われていなかった環境情報のやり取りが、ステークホルダー間で行なわれている。環境情報の取り扱いについての新たな知見の整理が必要であり、研究会や見学会などの場を設けて、整理、議論を行い、当該分野の新たな研究課題の抽出と重要性を検討することを目的とする。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：横尾昇剛 (宇都宮大学) 幹事：中島裕輔 (工学院大学)、山田貴宏 (BioForum 環境デザイン室) 委員：岩田三千子 (摂南大学)、木村謙 (エアアンドエー)、高口洋人 (早稲田大学)、堀英祐 (近畿大学)、吉村靖孝 (吉村靖孝建築設計事務所)、藤原紀沙 (宇都宮大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2018 年度予算	88,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：作成中	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー 等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 環境情報活用に関する研究事例を共有した 2. 環境情報活用に関する設計事例を共有した 3. 環境情報活用に関する地域・都市環境評価事例を共有した
委員会活動の問題点 ・課題	

2018 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A B C D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本小委員会では、建物及び建物内外に関わる情報全般を網羅的にレビューし、類型化した後、設計や建物運用、ステークホルダー間のコミュニケーションに活用出来る環境情報のフォーマットを整備している。また IoT 化に対応した環境設計、建物運用の方法論をまとめ、設計ツールなどへの反映方策を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見える化と環境情報・家歴情報 ・ 地域再創生と環境情報 ・ 建物の IoT 化動向 建物事例 ・ 不動産分野と環境情報 ・ BIM と環境情報 ・ 環境負荷情報 Embodied energy & CO2 ・ 都市 IoT 化と都市評価の環境情報

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。